

「ぐんまの風景を魅^みせる公共サイン」
ガイドライン



はじめに

県、市町村等が設置する公共サインは、景観を構成する要素の一つであり、その設置の仕方により、地域の魅力をより高めることができる反面、マイナスの印象を与えてしまうこともあります。

良好な景観を形成することは、住む人にとって、地域に対する誇りや愛着を育むことにつながるとともに、訪れる人にとっては、地域の良好なイメージを印象づけることができます。

そこで、本ガイドラインのタイトルを「ぐんまの風景を魅^みせる」公共サインといたしました。公共サインの設置にあたって、良好な景観を形成するために、景観を阻害しない大きさや色彩にすることや、読みやすくわかりやすい書体にするなど、ちょっとした工夫をしたり、地域の魅力を高めるために、どのようなサインを、どこに、どうやって設置するのかを考えることを通して、「ぐんまの風景を魅^みせる」ことを目指しています。

景観の保全と調和を図り、わかりやすく効果的なサインについてまとめましたので、公共サインの設置にあたっての参考としてください。

目次

はじめに， 目次

1章 総論

1-1 公共サインとは	2
1-2 公共サインの課題と本ガイドラインの目的	3
1-3 公共サインの種類	4
1-4 公共サイン計画のフロー	6
1-5 自治体間の整備の連携	7

2章 共通ガイドライン

2-1 設置計画	10
2-2 情報計画	12
2-3 プロダクト計画（維持管理）	17

3章 種類別ガイドライン（参考資料）

3-1 公共サイン種類別の考え方	21
3-2 都市サイン	22
3-3 ウェルカムサイン	24
3-4 広報サイン	25
3-5 公共サインと情報ツールの連携	28

（参考）公共サイン計画のための自己チェックシート

1章 総論

1-1 公共サインとは

公共サインは屋外に掲出される視覚的情報のうち、公共的な内容を示し、人が行動するために必要な情報を伝えるものです。来訪者や県民に県内を分かりやすく案内し、地域や文化に対する理解を深める役割があります。

公共施設や観光施設等への案内誘導や、地域の歴史や文化などを記した解説サイン、規制を知らせるサイン、注意喚起・マナー・道徳・啓発を示すサインなど、様々なサインが存在しています。設置主体は国・都道府県・市町村、公的機関等となります。

1-2 公共サインの課題と本ガイドラインの目的

(1) 公共サインの課題

- 公共サインは、屋外広告物条例では適用除外として禁止地域においても掲出が可能であるため、景観に大きな影響を及ぼします。
- 公共サインは各自治体や異なる部署により独自に掲出されるため、表示内容やデザイン、配置に一貫性や統一がありません。
- 住民や外国人観光客も含めた来訪者など、利用者側から見てわかりづらいものや、表示内容の意図が不明なものが掲出されている場合があります。
- 立て看板等の仮設サインは、長年様々な場所で無秩序に設置され、さらに管理が不十分で老朽化したものが現場に放置されることで、周辺的美観を乱す要因ともなっており、安全性の問題も指摘されています。

(2) 公共サインのポイント

上記の課題を整理すると以下の3つのポイントとなります。

- 景観保全に配慮した設置計画、デザインが必要。
- 計画的にルールを設定して不特定多数の人にわかりやすく伝えることが必要。
- 掲出期間やメンテナンスについて計画性をもち、安全や美観に配慮する姿勢が必要。

(3) 本ガイドラインの目的

上記ポイントを受け、以下のとおり目的を設定します。

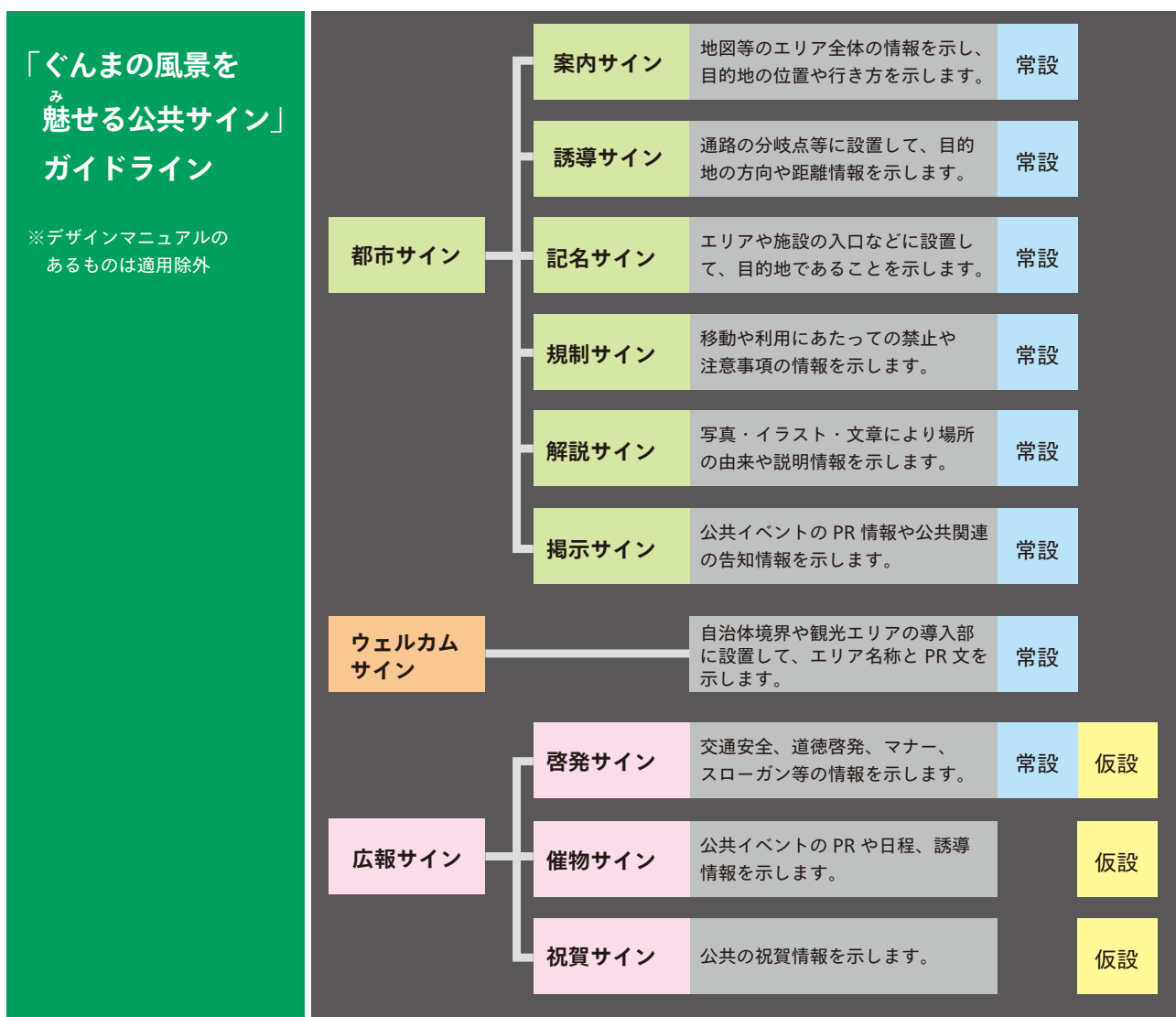
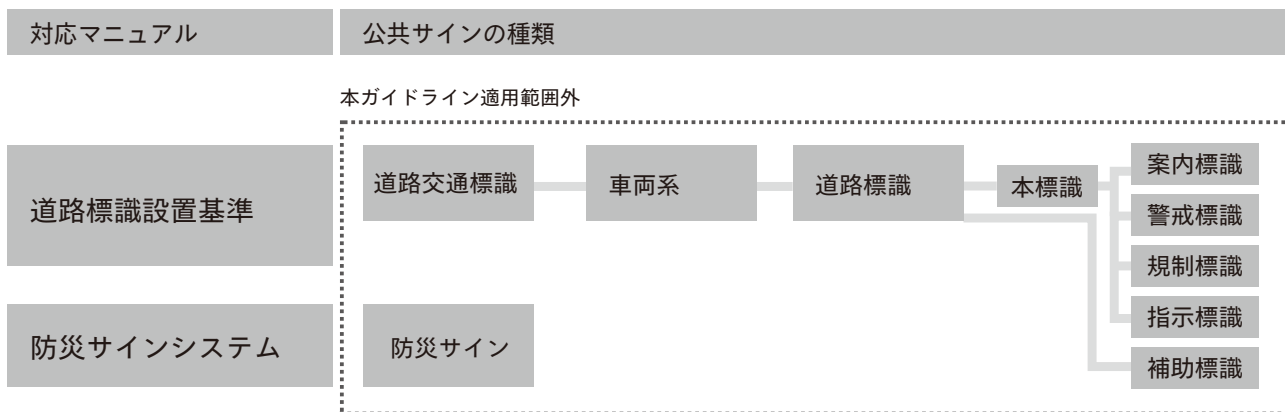


本ガイドラインは、公共サインを掲出するにあたり、景観保全に配慮し、わかりやすい情報を安全に提供するための手法や考え方を示すものです。

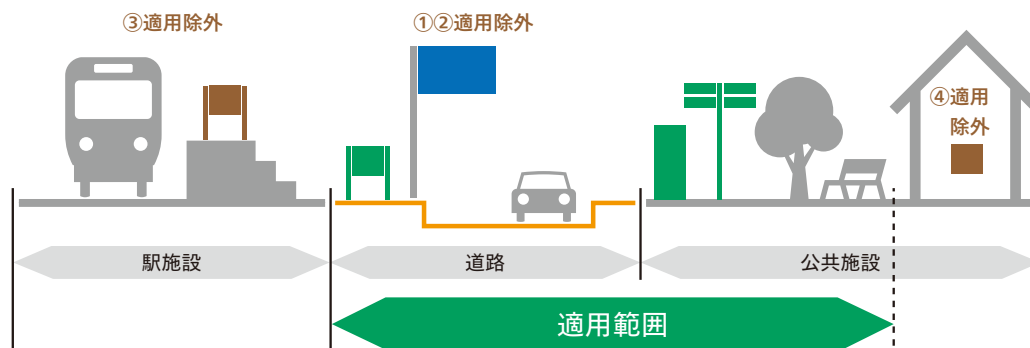
1-3 公共サインの種類

(1) サインの種類と本ガイドラインの適用範囲

●本ガイドラインでは「都市サイン」「ウェルカムサイン」「広報サイン」を適用範囲とします。



- 公共サインの中で、道路管理者が設置する道路標識、設置が義務付けられる防災サイン及び駅施設のサイン、公共施設内部のサインは、本ガイドラインの適用外とします。



県・市町村、公共的団体（※）が設置する公共サインを適用範囲とし、以下のものについては適用除外とします。

- ① 道路管理者が設置する道路標識、区画線及び道路標示に関する命令、及び道路標識設置基準で規定された標識。
- ② 既にサインマニュアルのあるもの。
- ③ 駅に設置するサイン。
- ④ 公共施設の建物内のサイン。

※公共的団体とは国、地方公共団体が関与する団体をいいます。具体的には公団、公社、公庫、農協、生協などを指します。

(2) 常設サインと仮設サイン

- 屋外に設置される公共サインには何十年も設置されることを想定した常設サインと一時的な啓発、催物、祝賀などを示す仮設サインがあります。

〈常設サインの例〉



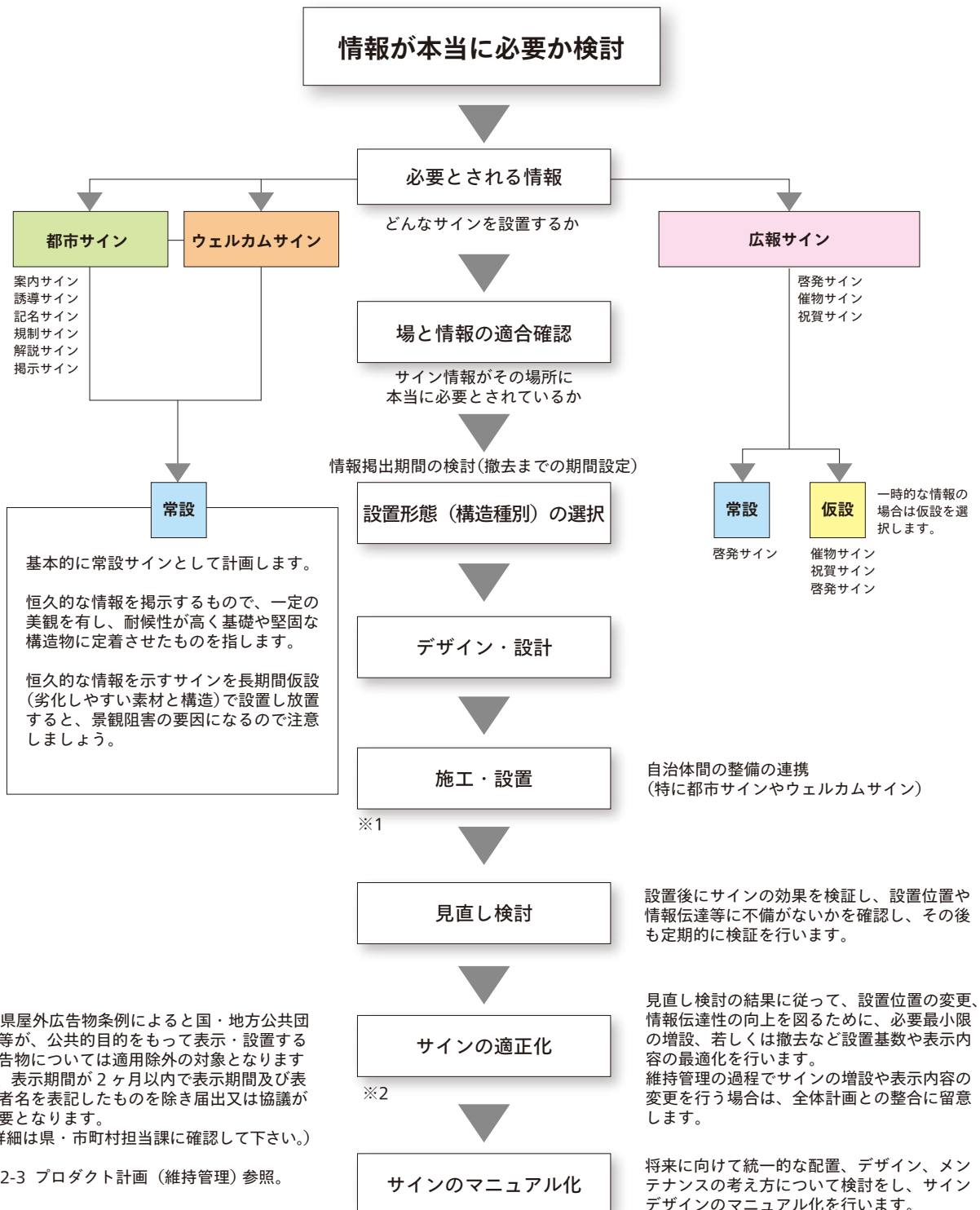
〈仮設サインの例〉



1-4 公共サインの計画フロー

公共サインの無秩序な設置は、時間が経つにつれて情報伝達、景観調和、安全性、維持管理等の点で問題が生じることとなるため、一時的な広報情報を掲出する場合以外は、当初の段階で各自治体等で、体系的かつ統一的な常設サインを基本とする計画を立てておくことが重要です。

また、サインの設置後は定期的に効果の検証及び見直し検討を行い、再配置等による最適化を図ることが必要です。



1-5 自治体間の整備の連携

公共サイン（特に都市サインやウェルカムサイン）は、隣接する市町村間、隣接県間の連携を強化しながら、分かりやすい整備に努めることが必要です。意匠や表示について統一的な連続性をもたせると来訪者にとって分かりやすいサインとなります。

また、一方で都市部と山間部とでは、その地域特性が異なることから、一律に設置するのではなく、その地域の風景に合致したサインを設置する視点も大切です。

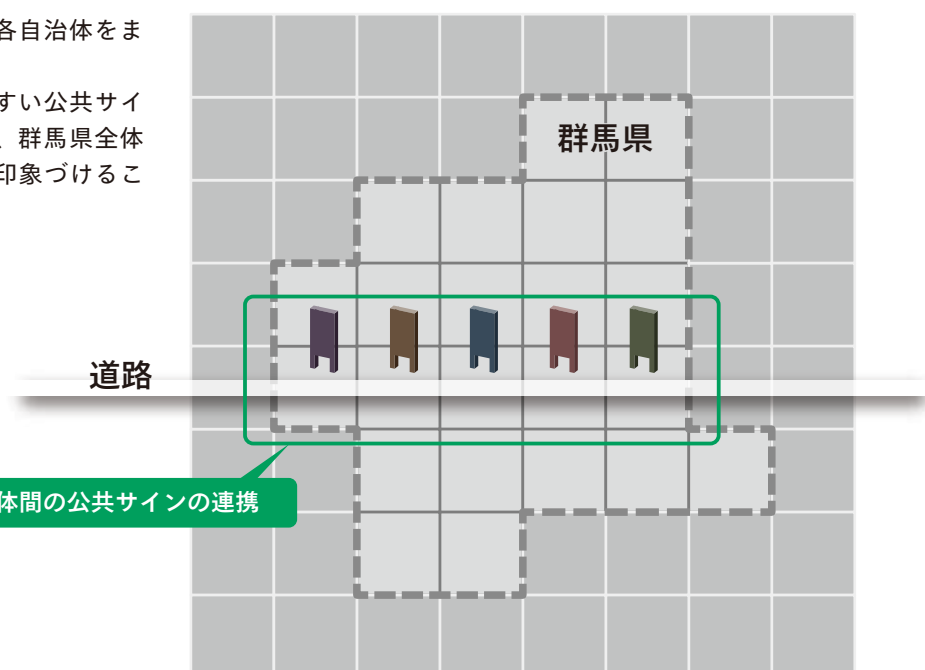


自治体をまたいで統一設定されたサイン例
 (※上信自動車道景観誘導地域
 統一デザイン集合看板)

自治体間連携の概念図

来訪者が利用する道路は各自治体をまたいでいます。

景観を阻害せずわかりやすい公共サインが連続することによって、群馬県全体のイメージを良好なものに印象づけることができます。



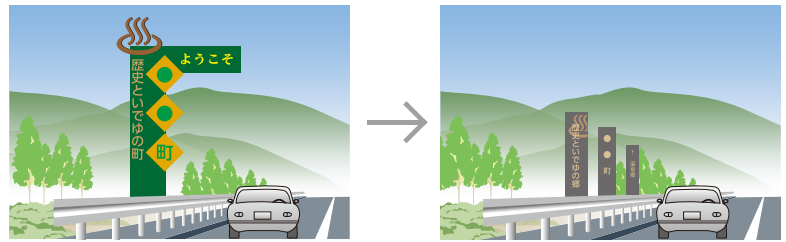
2章 共通ガイドライン

2-1 設置計画

設置計画

01

景観を阻害
しない設置
とする



- 良好な景観を阻害しない大きさ、形状としましょう。
- 良好な景観を阻害しない場所に設置しましょう。

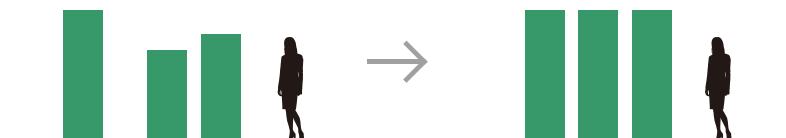
設置計画

02

景観に配慮
した設置と
する



- 必要最低限の情報を表示し、高さやボリュームを抑えましょう。
- 複数のサインは、高さを揃え整列させるなど一体感を演出しましょう。

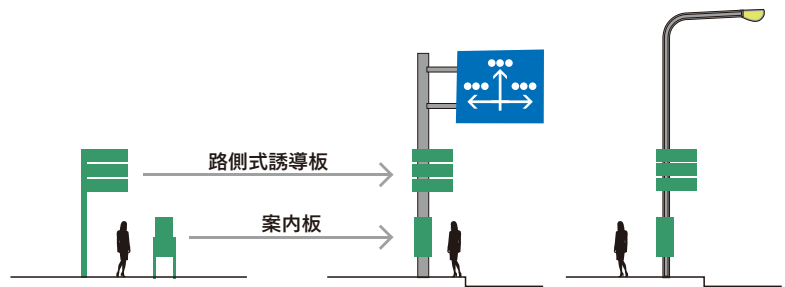
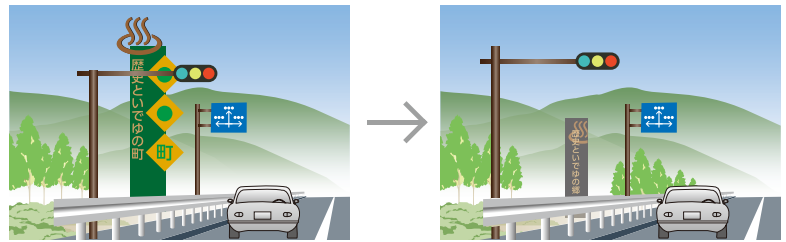


設置計画

03

交通の安全に 配慮した 設置とする

- 道路標識や信号より低い高さに抑えましょう。
- 道路標識や信号を遮らない場所に設置しましょう。
- 道路標識、照明、電柱などと供架することも検討しましょう。

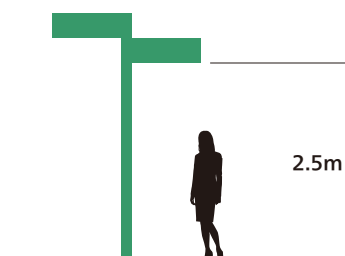


設置計画

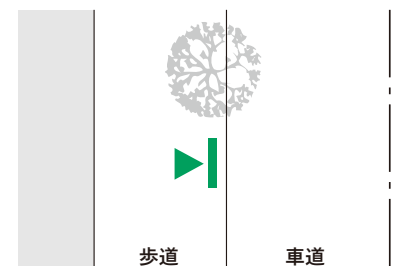
04

歩行者の 安全に 配慮する

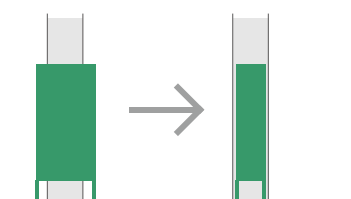
- 歩行者の移動を阻害しない安全な向きと高さにしましょう。
- 死角のできないサイズと配置にしましょう。



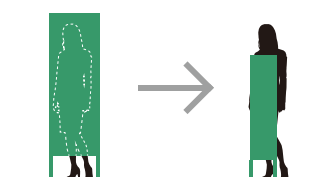
歩行者が通行する頭上に設置する場合は路面から2.5m以上あげましょう。



歩道のある広幅員道路の場合
 ・歩道上の歩車境界寄りに設置。
 ・表示の向きは、道路に平行。
 ・表示面は歩道から車道に向かう面。



歩行者のじゃまにならない電柱より狭い幅



人が隠れない幅と高さ

2-2 情報計画

情報計画

01

読みやすく
わかりやすい
書体を選定する

- 和文書体については角ゴシック体が視認性に優れているとされています。
- 併記する欧文は、見やすく和文のイメージと合った書体を選定します。

角ゴシック体

和文：UD新ゴ
欧文：Frutiger

群馬県
Gunma



○ 視認性の高い角ゴシック体の例

明朝体

和文：UD黎明
欧文：Garamond

群馬県
Gunma



○ 歴史的観光地などは明朝体が似合います。



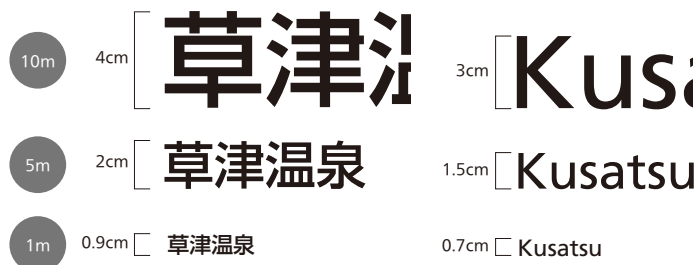
! 美観を損ねるポップ体等の商業宣伝用書体や手書き文字の例

情報計画

02

視認距離に
あった文字を
設定する

- サインの文字の大きさは、視力の低下した高齢者等に配慮して、視認距離に応じた大きさに設定しましょう。文字の大きさを決める目安としては【文字の高さ × 250 = 可読距離】。例えば 10m くらい離れて見るサインであれば文字の高さは 4 cm 以上必要となります。
- ドライバーへ告知するサインでは、判読時間を考慮して、多くても 15 文字程度におさめましょう。



車両に向けた交通に係る禁止・注意喚起サイン

視認距離 10～20m、和文文字サイズを 4～8cm 程度

歩行者等に向けた案内誘導サインの見出しや行き先表示サイン

視認距離 5～10m、和文文字サイズを 2～4cm 程度

視認距離	和文文字高 (cm以上)	欧文文字高 (cm以上)
100m	40	30
50m	20	15
20m	8	6
10m	4	3
5m	2	1.5
1m	0.9	0.7



! 文字数が多いため、自動車を運転しながら内容を判読するのが難しいです。

情報計画

03

ピクトグラムを利用する

- ピクトグラムは幅広い年齢層や外国人に施設や設備機能の意味を効果的に伝えることが可能です。
- 外国人にも認識されやすいピクトグラムを活用することは情報の伝達に効果的です。



○ 禁止・注意事項にピクトグラムを使用することで、直感的に情報を伝達できます。

! 文章のみの表示は、全て読まないと内容を理解できません。

! 具象的なイラストは、かえって情報を明確に伝達できません。

ピクトグラム例
(標準案内用図記号 / JIS)

標準案内用図記号（大部分が JIS 規格化）及び JIS のピクトグラムの使用を推奨します。



情報計画

04

多言語表記に対応する

- 外国人への配慮として、サインへの表記は日本語と英語の2言語併記を基本としましょう。
- 地域や施設の特性を考慮し、必要に応じて中国語、韓国語、その他の言語の併記も検討しましょう。



○ 英語を併記し外国人にも情報を提供します。



○ 英語、中国語、韓国語を併記した地図表示の例

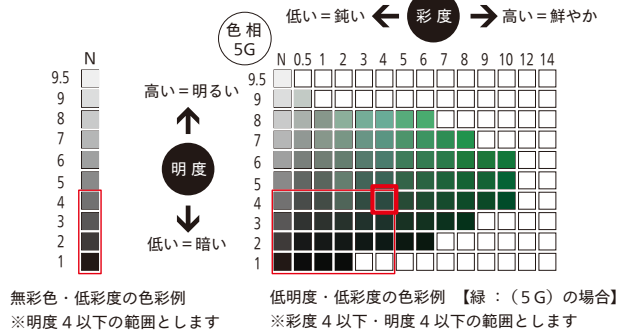
情報計画

05

景観に配慮した色彩を選定する

- サイン表示面の地色は、景観に調和する低明度、低彩度の落ち着いた色を選択しましょう。(※25ページ参照)
- また、原則として白色は地色に使用しないことが望まれます。白系の色を使用する場合は、真っ白ではなく薄灰色を使用しましょう。
- 文字色は、多彩な色を用いず、無彩色(白～黒色)を使用することを検討しましょう。
- 注意を表す場合の黄色や、禁止を表す赤色は、JISの安全色を使用しましょう。

地色の色彩について

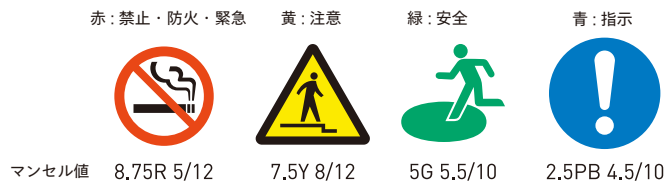


● 景観に調和する低明度・低彩度の色彩例 (ダークトーン)



! 周辺環境に対して目立ちすぎる色面

JISによる安全色(2017年改正)



※日本工業規格 JIS Z9103 において、色の範囲と参考色を定めており、禁止、指示、注意警告、安全状態などの情報を伝える安全標識をはじめ、様々な表示や製品の塗り分けに広く利用されています。

※サインの種類毎のガイドライン (P21 参照)

公共サインの種類	都市サイン	ウェルカムサイン	広報サイン		
			啓発サイン	催物サイン	祝賀サイン
色彩(地色)	低彩度	低彩度・低明度 (彩度4以下・明度4以下) ※統一デザイン集合看板 P21 に準ずる	無彩色・低明度 (グレー)	自由 ※色数は図色を含めて3色まで	自由 ※色数は図色を含めて3色まで

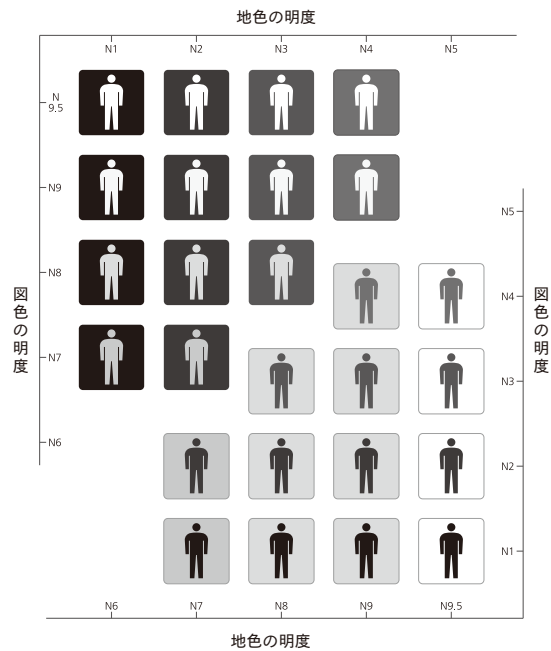
情報計画

06

読みやすい
色彩の組み
合わせとする

- 情報伝達の観点から、サイン自体が目立つのではなく、景観に調和しつつ、表示する情報をわかりやすく伝える色彩とすることを基本としましょう。
- 視認性を確保するために、地色と図色のコントラスト（明度差）を確保した配色を心がけましょう。
- 禁止系のピクトグラム（赤色）など地色とのコントラストが十分に確保できない場合は、周囲を白色で縁取るなどして明度差を設けるとわかりやすくなります。

地色と図色の対比例（明度差が確保されている例）



出典：「ひと目でわかるシンボルサイン」
（平成13年12月、公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団）



○ 白色で縁取りをすることで境界をはっきりとさせます。



! 縁取りがないので赤色とグレー色の境界が見分けにくいです。

情報計画

07

色彩選択で 注意すべき こと

- 誰にとってもわかりやすい色の組み合わせとし、見分けにくい色の組み合わせを避けるとともに、色相に頼らない表現を心がけ、表示要素ごとの明度差の確保に留意しましょう。

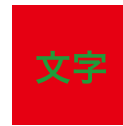
! 見分けにくい色の組み合わせ例



水色とピンク色



黄色と白色



赤色と緑色



赤色と黒色



青色と黒色



緑色と茶色



黄緑色と黄色



紫色と青色



赤色と茶色



青色と茶色



青色と黒色



青色と茶色

情報計画

08

電光掲示板 等について

- 電氣的に表示内容を変化させることができる電光掲示板等のサインは昼間でも見える輝度に設定してあります。
したがって夜間ではその明るさゆえに周辺の景観に与える影響は大きくなります。



! 景観に対して目立ちすぎる電光掲示板のイメージ

2-3 プロダクト計画（維持管理）

プロダクト計画

01

本体の 維持管理

- 定期的に清掃及び点検を行い、破損、腐食、表示面の劣化(退色等)が認められた場合は、速やかに修繕等の措置または撤去を検討し、適正に対処しましょう。

サイン製品の寿命の目安

	種別	寿命	耐用年数（※1）
構造体 (常設)	金属	30年(※2)	20年(構築物)
	その他	15年	10年(構築物)
構造体 (仮設)	立看板・置看板	5年	3年
	のぼり旗・バナー	1年	—
表示面	塩ビシート	10年	—
	インクジェット印刷 (屋外用ラミネート)	10年	—

(※1) 耐用年数は資産価値としての寿命を表したものです。

(※2) 寿命は（公社）日本サインデザイン協会が提唱する一般的な目安であり、メンテナンスの状況により期間は変動します。（※P19 公共サインの点検について参照。）

！ 劣化したサインが放置されている例



プロダクト計画

02

表示情報の 維持管理

- 道路や街区・施設の整備状況は、時間の経過とともに変化するため、常に利用者に対して適切な情報を提供しましょう。
- 定期点検時には表示情報の内容を確認し、更新の必要がある場合は速やかに行いましょう。
- 更新時には周辺の既設サインとの整合性にも配慮しましょう。



表示情報の更新例（塩ビシート切文字の貼替え）

プロダクト計画

03

周辺環境の
維持管理

- 公共サインの視認性の向上を図るために、必要に応じて街路樹やサイン設置箇所の植栽の剪定を行う等周辺環境の維持管理に努めましょう。



植栽がじゃまをしてサインの内容が判読できない例

プロダクト計画

04

耐久性・
耐候性の
高い素材選定

- 本体の素材は、維持管理の観点から屋外で年月が経過しても劣化しにくく、素材の美しさを保つことができるものを使用しましょう。



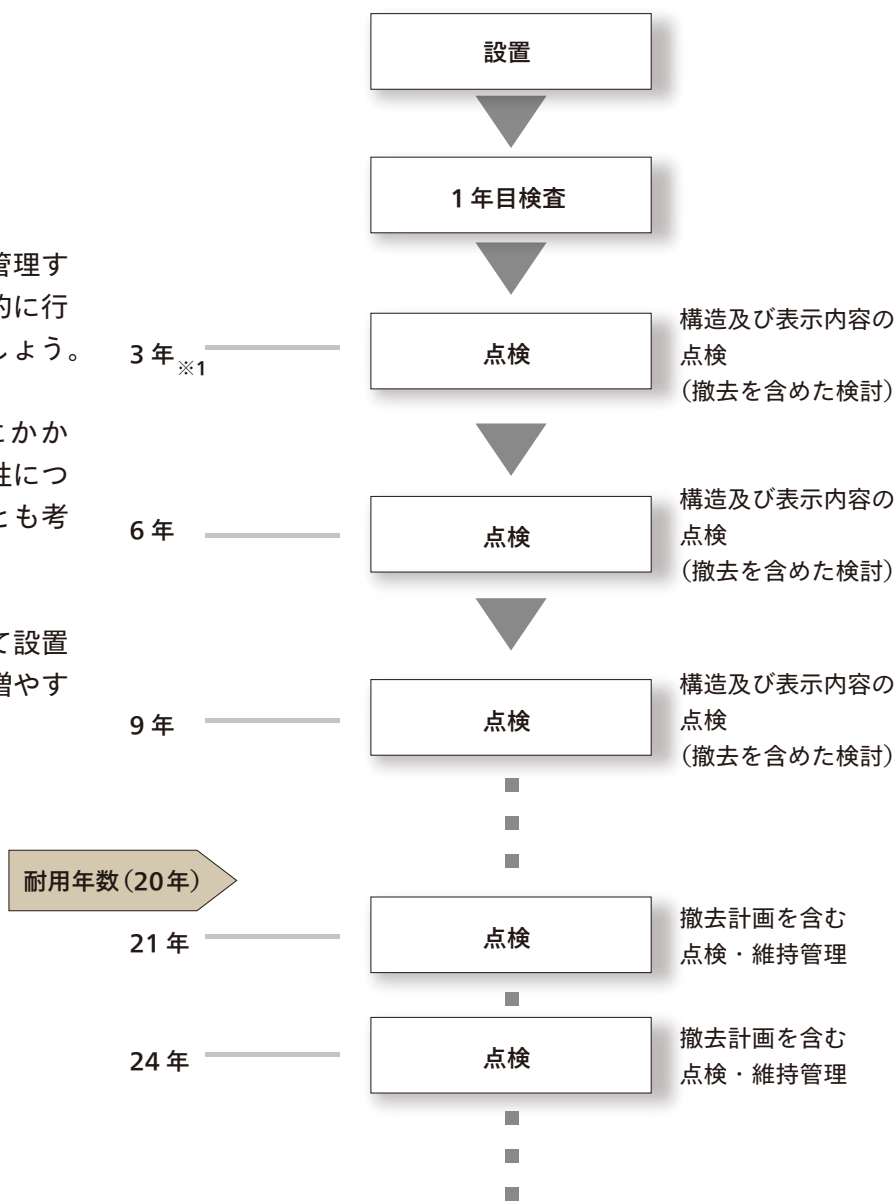
ステンレス鋼材によるサイン製作

05

公共サインの点検について

- 各自治体等において設置・管理する公共サインの点検を定期的に行うことで、安全を確保しましょう。
- 耐用年数（※参考:P17）にかかわらず、そのサインの必要性についても検討し、撤去することも考えましょう。
- 耐用年数を超えても継続して設置する場合は、点検の頻度を増やす等の対応をしましょう。

〈維持管理・点検の例〉 ※耐用年数 20 年の場合



※1：県屋外広告物条例においては、広告板・広告塔・電光掲示板等の許可期間が3年以内となっており、更新にあたっては安全点検を義務付けていることから、ここでは「3年」を目安としています。

※2：参考（点検については以下を参考にしてください。）
 「屋外広告物の安全点検に関する指針（案）」2017年7月 国土交通省
 「オーナーさんのための看板の安全管理ガイドブック」2015年9月 屋外広告物適正化推進委員会

参考：群馬県の街路灯は管理者プレートにより管理されており設置年月等の情報が記載されています。定期点検を計画的に実施するために有効な手段となります。



3章 種類別ガイドライン（参考資料）

3-1 公共サイン種類別の考え方

公共サインの種類による基本的な考え方を整理します。

公共サインの種類	都市サイン P22~P23	ウェルカムサイン P24	広報サイン P25~P27		
			啓発サイン	催物サイン	祝賀サイン
サインの内容 (留意点)	シンプルで機能的	読みやすく個性的	最小限でわかりやすい		
色彩 (地色)	低彩度	低彩度・低明度 (彩度4以下・明度4以下) ※統一デザイン集合看板に準ずる	無彩色・低明度 (グレー)	自由 ※色数は四色を含めて3色まで	自由 ※色数は四色を含めて3色まで
形状	シンプルに規定	自由	P25	P26	P27
書体	視認性の高い書体	自由	視認性の高い書体	視認性の高い書体	視認性の高い書体
ピクトグラム	JIS基準に規定	—	JIS基準に規定	JIS基準に規定	—
表示レイアウト	P22~P23	P24	P25	P26	P27

※統一デザイン集合看板について

県屋外広告物条例により上信自動車道沿線を景観誘導地域に指定し、屋外広告物の規制を行っています。

上信自動車道のアクセス道路周辺部においては、統一デザインの集合看板のみ掲出することが可能となっています。

ウェルカムサインの色彩は統一デザイン集合看板に準じ、低彩度・低明度（彩度4以下・明度4以下）としましょう。

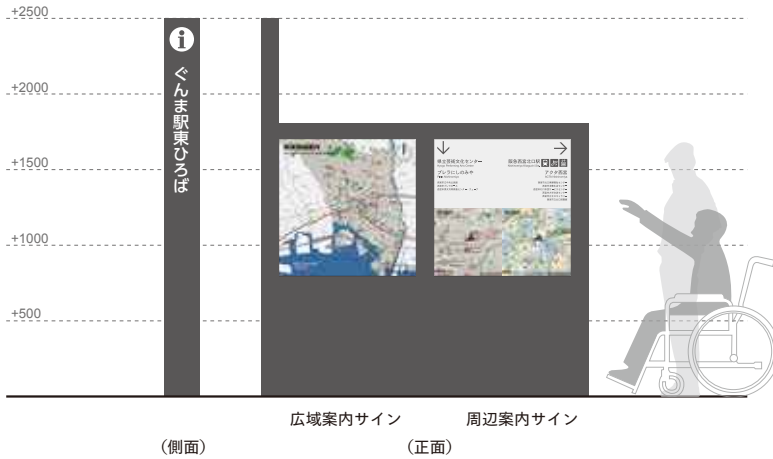
		マンセル値	日塗工
	赤	10R 2/2	J09-20D
	茶	10YR 3/1	J19-30B
	緑	5G 2/2	J45-20D
	青	5PB 2/2	J75-20D
	紫	5RP 2/2	J95-20D
	グレー	N2.5	N-25

参考：上信自動車道景観誘導地域における統一デザイン集合看板の配色のきまり

3-2 都市サイン

案内サイン

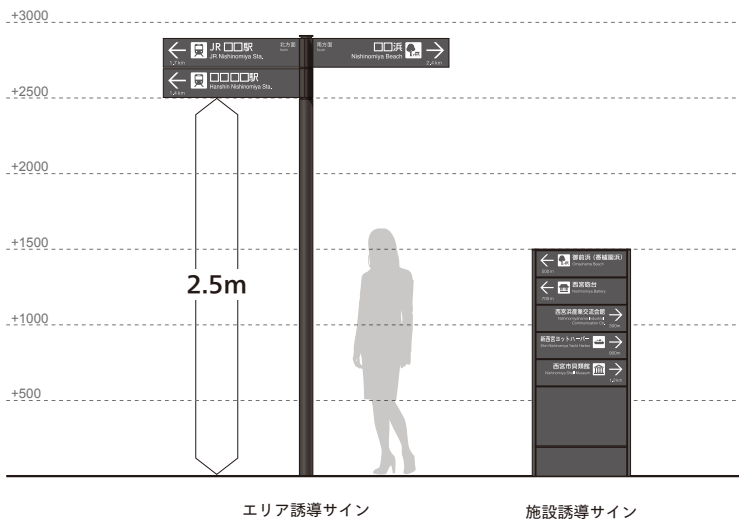
地図等のエリア全体の情報を示し、目的地の位置や行き方を示します。



- サインの存在が一見してわかる場所で、通行の支障にならないように設置しましょう。
- 高い位置にインフォメーションを示すピクトグラムを表示することで、離れた位置の歩行者へもサインの位置を告知できます。
- 案内サインは、車いす利用者と立位の利用者の双方が見やすい高さとし、（表示面の中心高さは、1250mmを基本とします）

誘導サイン

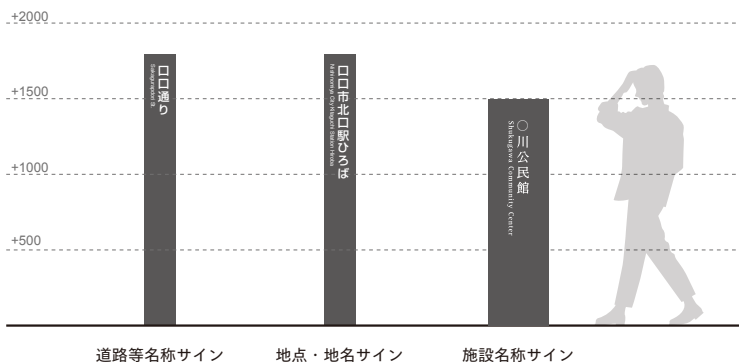
通路の分岐点等に設置して、目的地の方向や距離情報を示します。



- 誘導サインは、必要な情報が連続的に得られるように設置しましょう。その際に動線の分岐点や曲がり角が設置ポイントとなります。動線に分岐がない場合でも、長い通路等では誘導サインは繰り返し設置しましょう。

記名サイン

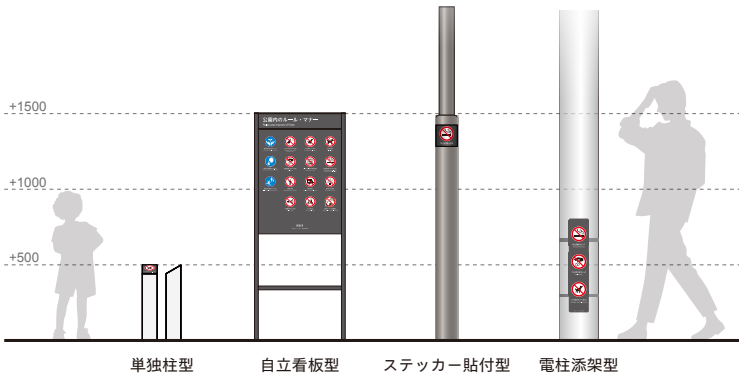
エリアや施設の入口などに設置して、目的地であることを示します。



- 記名サインは、名称を告知しようとする拠点、施設の間近に設置しましょう。
- 大きすぎるサインは建築物や自然景観を阻害します。高さは4 m未滿としましょう。

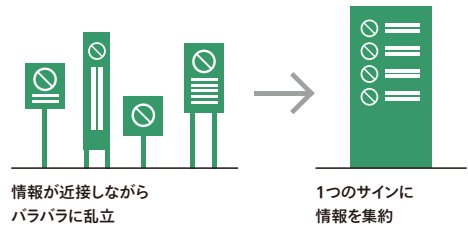
規制サイン

移動や利用にあたっての禁止や注意事項の情報を示します。



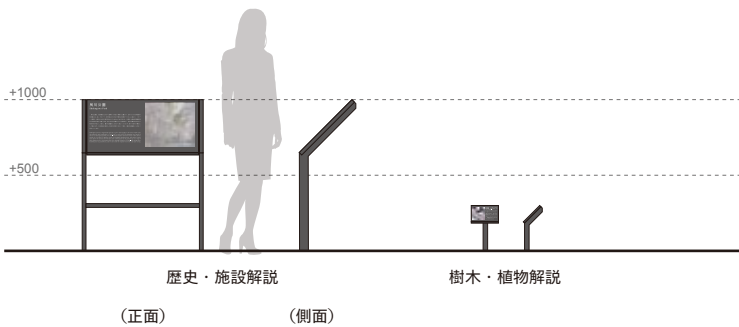
● 情報集約による景観配慮とわかりやすさ

複数のサインが乱立していると、景観阻害要素になるだけでなく、情報が伝わりにくくなる要因となります。1つのサインに情報を集約することで景観への配慮と効果的な情報伝達が可能となります。



記名サイン

写真・イラスト・文章により場所の由来や説明情報を示します。

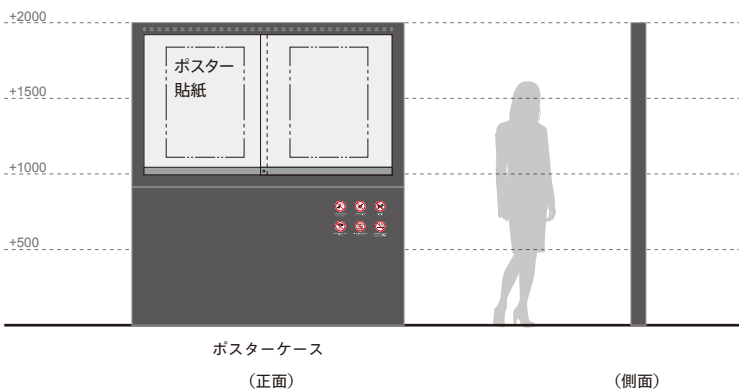


● サインの高さを低く抑えることにより、解説する対象物（建築物、構造物、樹木、自然景観等）を遮ることなく、利用者へ情報提供をすることができます。

● 傾斜をつけることにより、高さが低くても見やすいサインとなります。

掲示サイン

公共イベントのPR情報や公共関連の告知情報を示します。



● 透明ガラスの扉式（鍵付）とすることでポスター等の掲示物が風雨に晒されず、綺麗な状態を保つことができます。

● 幕板部等に規制情報を集約することで、利用者へ必要な情報をまとめて提供できます。

● 外からの照明の場合、ガラスに反射して見えにくくなります。内部照明の設定で掲示物を明るく照らし、見やすいものとなります。

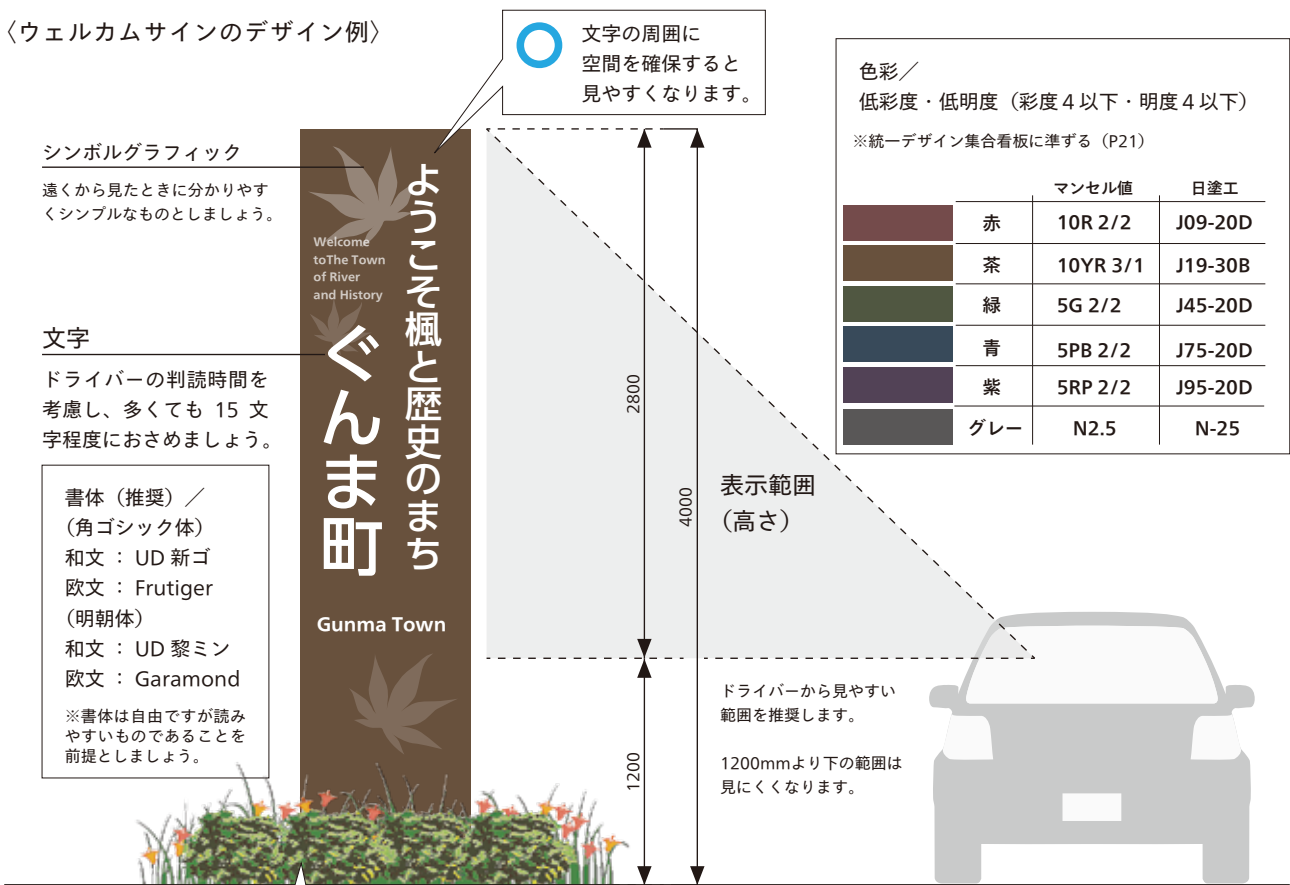
3-3 ウェルカムサイン

ウェルカムサイン

主要幹線道路の自治体境界や観光エリアの導入部（境界、交差点）に設置され、名称を表示するとともに、エリアの魅力をキャッチコピーやグラフィックで簡潔に表現することにより、誘導機能だけでなく、来訪の動機付けとなる役割をもたせたサインです。

- 観光振興に役立ち、地域の魅力を高めるデザインを意識しましょう。
- 周辺の環境に調和しながらも、アイキャッチ効果をもたせましょう。
- たくさんの情報を盛り込まず、情報のヒエラルキーを明確にして、シンプルな表示とすることで可読性が向上します。

〈ウェルカムサインのデザイン例〉



脚元の修景について （花や緑の活用）

花や緑は景観の中で気持ちを和ませる要素として受け止められており、各地のまちづくりや観光振興の柱として導入が進んでいます。花の持つ色彩は人工的に塗装されたサインの色より明度が高いにも関わらず、刺激が強い印象はないため、賑わい演出や彩りを添える手段として効果的です。また目に優しい樹木の緑によってできる陰影が、サインの堅さを和らげてくれます。街中、郊外と場所を問わず花や緑を取り入れたサインは、印象も良くすることができます。

※P18 周辺環境の維持管理 参照



● 周辺の環境に調和しながら、シンボルでアイキャッチの効果を付加させた好例。



● 耐久性のある素材と複合して、町の特性をシンプルに表現した好例。



! 文字数が多いため、自動車を運転しながら内容を判読するのが難しいです。

3-4 広報サイン

啓発サイン

交通安全、道徳啓発、マナー、スローガン等の情報を示します。

- 形状はシンプルなものとしましょう。
- 無彩色・低明度（ダークグレー）の色彩としましょう。
- たくさんの情報を盛り込まず、必要最小限の表示とすることで可読性が向上します。（多くても15文字程度に抑えます。）
- 文字の周囲に空間を確保することで見やすい表示となります。

〈啓発サインのデザイン例〉

文字（和文）

ドライバーの判読時間を考慮し、多くても15文字程度におさめましょう。



書体／
（角ゴシック体）
和文：UD 新ゴ
欧文：Frutiger


○ 文字の周囲に空間を確保すると見やすくなります。

		マンセル値	日塗工
	グレー	N2.5	N-25


注意を表す場合の黄色や、禁止を表す赤色は、JISの安全色を使用します。

JISによる安全色（2017年改正）

赤 禁止・防火・緊急	黄 注意
	
マンセル値 8.75R 5/12	7.5Y 8/12



常設



仮設(立看板)



！ 景観に調和していない白のベース色と赤や黄の高彩度色の例



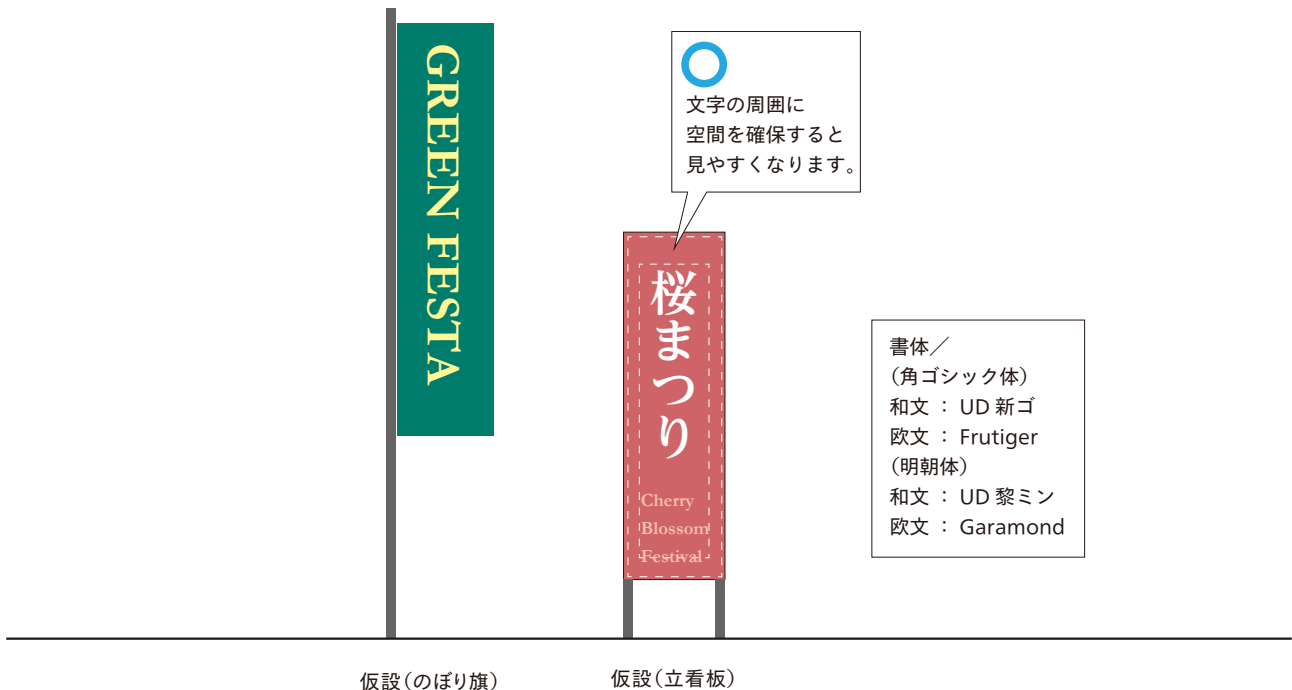
！ 街の美観に影響を及ぼす本体の錆と、可読性を低下させる文字部の退色した例。

催物サイン

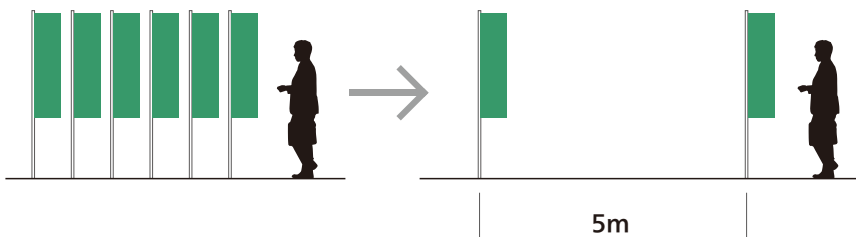
公共イベントのPRや日程、誘導情報を示します。

- 形状はシンプルなものとしましょう。
- 色彩は自由としますが、色数は地色1色に対して図色は2色までとしましょう。
- たくさんの情報を盛り込まず、シンプルな表示とすることで可読性が向上します。
- 文字の周囲に空間を確保することで見やすい表示となります。

〈催物サインのデザイン例〉



※ 効果的な数量と間隔を保ち、過剰な設置をしないものとします。また、のぼり旗は布地がはためき、可読性が低くなるので、表示する情報量を抑えましょう。



●大量に設置すると煩雑な印象

●数を限定して判読しやすく



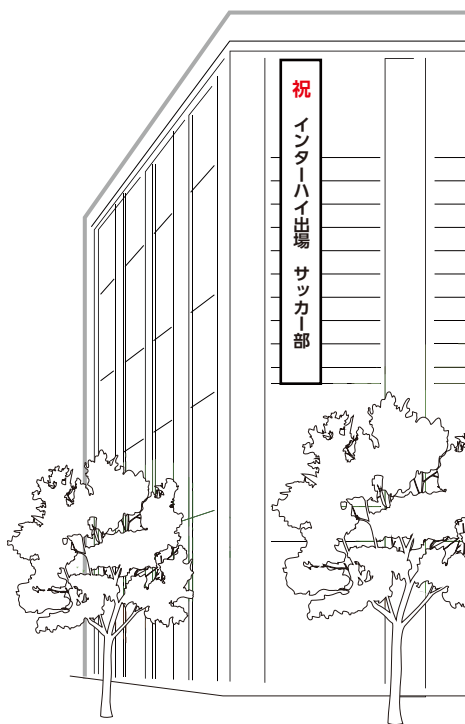
仮設(のぼり旗)

3色の少ない色彩構成のシンプルな表示デザインは街の景観を心地よく彩ります。

祝賀サイン

公共の祝賀情報を示します。

- 形状はシンプルなものとしましょう。
- 色彩は自由としますが、色数は地色1色に対して図色は2色までとしましょう。
- たくさんの情報を盛り込まず、シンプルな表示とすることで可読性が向上します。
(懸垂幕や横断幕への表示は、多くても15文字程度に抑えましょう。)
- 文字の周囲に空間を確保することで見やすい表示となります。



仮設(懸垂幕)

※ 掲出にあたり、建築物等の意匠を損なわないようにしましょう。

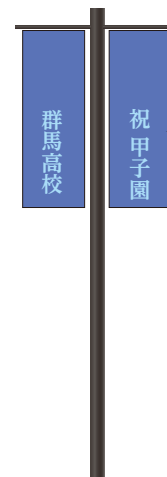


仮設(横断幕)

○ 文字の周囲に空間を確保すると見やすくなります。



仮設(懸垂幕)



仮設(バナー)

○ 少ない色彩構成のシンプルなデザインとします。

書体/
(角ゴシック体)
和文: UD新ゴ
欧文: Frutiger
(明朝体)
和文: UD黎ミン
欧文: Garamond



仮設(横断幕)

※ 掲出にあたり、建築物等の意匠を損なわないようにしましょう。



仮設(バナー)

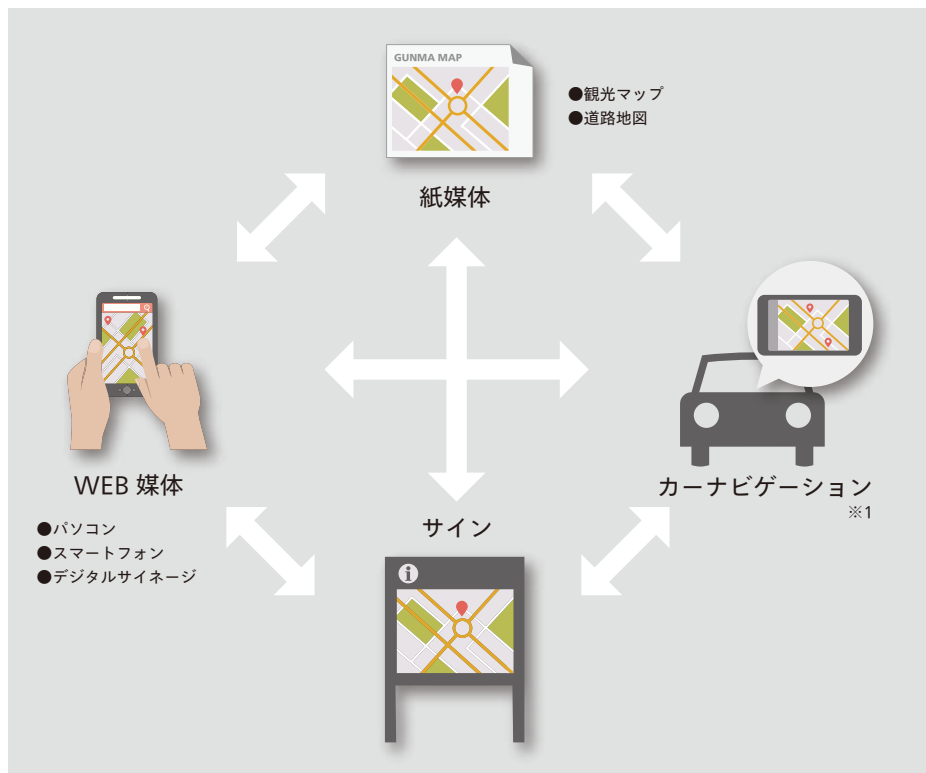
※ 効果的な数量と間隔を保ち、過剰な設置をしないものとし、また布地がはためき、可読性が低いので、表示する情報量を抑えましょう。

○ 2色の少ない色彩構成のシンプルな表示デザインは街の景観を心地よく彩ります。

3-5 公共サインと情報ツールの連携

多様な情報ツールとの連携（クロスメディア）

- 紙媒体や WEB 媒体のマップ情報、カーナビゲーション等、多様な情報ツールと連携をして情報提供をするシステムをつくることで、公共サインの乱立を避け、最低限のサインにより目的地に円滑に案内することが可能となります。



※1: カーナビゲーションの案内表示について、各自治体の持つ情報を反映させるには、一般財団法人 日本デジタル道路地図協会のホームページを参考としてください。
(ホームページアドレスは、<http://www.drm.jp/company/naviyoubou.html>)



福岡市のマップデータの媒体利用展開

福岡市では、バスシェルターに設置している案内地図のデータを他の媒体や都市サインに活用しています。表現の統一が、利用者にとってわかりやすい情報提供となっています。



サインとデジタルデバイスの連携例

三陸地域の観光案内サインでは、QR コードをスマートフォンで読み取ると、解説情報を外国語で入手できます。

＊本ガイドラインに則り、屋外広告物を掲出する際に活用してください。

「ぐんまの風景を魅せる公共サイン」

公共サイン計画のための自己チェックシート

ガイドライン推奨基準		はい	いいえ
設置計画	良好な景観を阻害しない大きさ、形状としていますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	良好な景観を阻害しない場所に設置していますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	必要最低限の情報を表示し、高さや面積を抑えていますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	複数のサインは、高さを揃え整列させるなど一体感を演出できていますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	道路標識や信号より低い高さに抑えていますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	道路標識や信号を遮らない場所に設置していますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	道路標識、照明、電柱などと供架を検討していますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	歩行者の移動を阻害しない安全な向きと高さになっていますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	死角のできないサイズと配置になっていますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
情報計画	書体は視認性に優れているものを選定していますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	併記する欧文は、見やすく和文のイメージと合った書体を選定していますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	サインの文字の大きさは、視力の低下した高齢者等に配慮して、視距離に応じた大きさに設定していますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	ドライバーへ告知するサインでは判読時間を考慮し、多くても15文字程度におさめていますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	幅広い年齢層や外国人に施設や設備機能の意味を効果的に伝えることが可能なピクトグラムを活用していますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	情報の伝達に、効果的なピクトグラムを活用していますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	外国人への配慮として、サインへの表記は日本語と英語の2言語記載を基本としていますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	地域や施設の特性を考慮し、必要に応じて中国語、韓国語、更にはその他の言語を併記することを検討していますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	サイン表示面の地色は、景観に調和する低明度、低彩度の落ち着いた色を選択していますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	地色に白系の色を使用する場合は、真っ白ではなく薄灰色を使用していますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	文字色は、多彩な色を用いず、無彩色（白～黒色）を使用していますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	注意を表す場合の黄色や、禁止を表す赤色は、JISの安全色を使用していますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	サイン自体が目立つのではなく、景観に調和しつつ、表示する情報をわかりやすく伝える色彩としていますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	視認性を確保するために、地色と図色のコントラスト（明度差）を確保した配色としていますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	禁止系のピクトグラム（赤色）など地色とのコントラストが十分に確保できない場合は、周囲を白色で縁取るなどして明度差を設けていますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	誰にとってもわかりやすい色の組み合わせとしていますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	見分けにくい色の組合せを避けるとともに、表示要素ごとの明度差を確保していますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
電氣的に表示内容を変化させることができる電光掲示板等のサインの山間部や田園地域への設置は控えていますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	
プロダクト計画（維持管理）	定期的に清掃及び点検を行っていますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	定期点検時には表示情報についても内容確認を行っていますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	表示情報更新の必要がある場合は速やかに行っていますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	表示情報更新の際に周辺の既設公共サインの表示情報も十分に確認し、整合性を確保するよう調整を図っていますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	公共サインの視認性向上を図るため、必要に応じて街路樹やサイン設置箇所の植栽の剪定を行う等、周辺環境の維持管理に努めていますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	本体の素材は、屋外で年月が経過しても劣化しにくく、素材の美しさを保つことができるものを使用していますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	安全を確保するため、耐用年数を超えた時点での点検の頻度を増やし、撤去を含めた検討を行っていますか。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

平成 31 年 3 月

群馬県 県土整備部 都市計画課

群馬県前橋市大手町 1-1-1

TEL 027-226-3652

FAX 027-221-5566